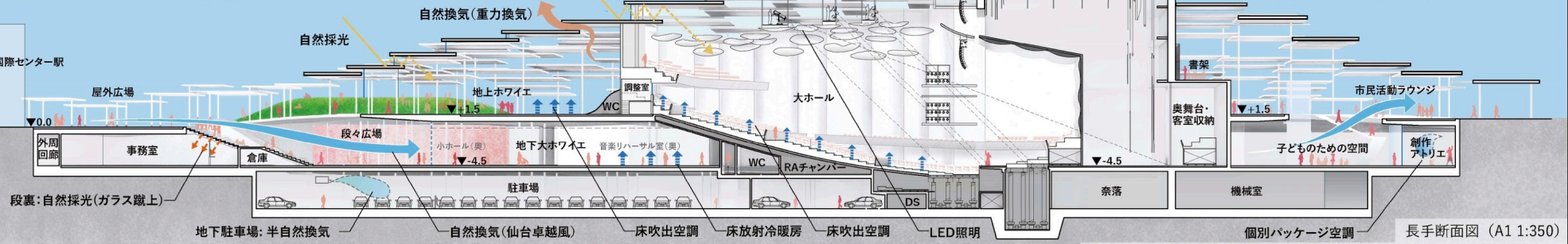
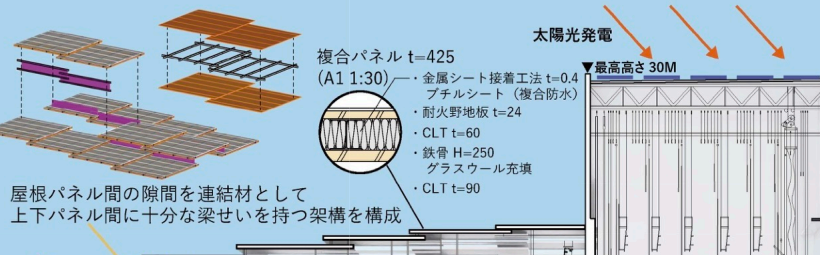


コンセプトモデル

構造計画

- 建物全体を覆う屋根は小さく分割され、隙間を設けて重なり合う構成で、建物周辺部では自然採光や自然通風のために、隙間を環境的に活用します。
- 客席上部など遮光が必要でかつ大スパンとなる部分では、この隙間をウェブとして上下に重なる屋根パネルを繋ぐことで十分な梁せいをを持った構造体と同じシステムの中に合理的に作り出します。
- 屋根パネルは鉄骨フレームの上下を CLT でサンドイッチした環境配慮型の軽量ハイブリッド構造としています。
- 壁パネルはホール周辺で適切に配置され、音響・環境・展示などにも有効な耐震壁として機能し、高い耐震性能を確保します。
- 基礎はマットスラブとすることで掘削量を低減し、1階床をフラットスラブとすることで、上下階の柱・壁配置の自由度を担保する計画としています。

CLT-S-CLT のハイブリッド構造



大ホール内部空間、中心部震災メモリアル拠点、広場エリアのイメージ

環境計画

- 高い居住快適性と脱炭素化が両立する環境建築 (ZEB Ready) を実現します。
- 地上階は自然採光と自然換気 (重力換気)、床吹出空調により自然を適度に取り入れます。
- 地下階は地下の高断熱性能を活かし、仙台の卓越風向と重なる自然換気 (水平換気) と床放射冷暖房を組み合わせ、常に安定し穏やかな環境に保ちます。
- 大ホールは床吹出空調や LED 照明により高品質な省エネ環境を実現します。
- フライタワー上部に太陽光発電を設置します。
- 熱源は県産材を用いた空調熱源システムを構築します。

設計理念

- ①ワンフロアの大ホールをつくります
- ②人工の森のような地上階をつくります
- ③安定した温度環境の地下階を実現します
- ④庭園のような地上階に災害文化創造・発信機能を点在させます
- ⑤コンサートやイベントで日常的に賑わうホワイエをつくります

音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点

大ホールを取り囲む周遊可能な庭園のような空間をつくります。災害文化創造・発信機能は、周遊路に沿って4つのゾーン (認知 / 創造 / 実装 / 発信) に分けて点在させます。ホールと災害文化創造・発信機能を融合し、人々が文化芸術や災害文化と日常的に触れ合える施設とします。



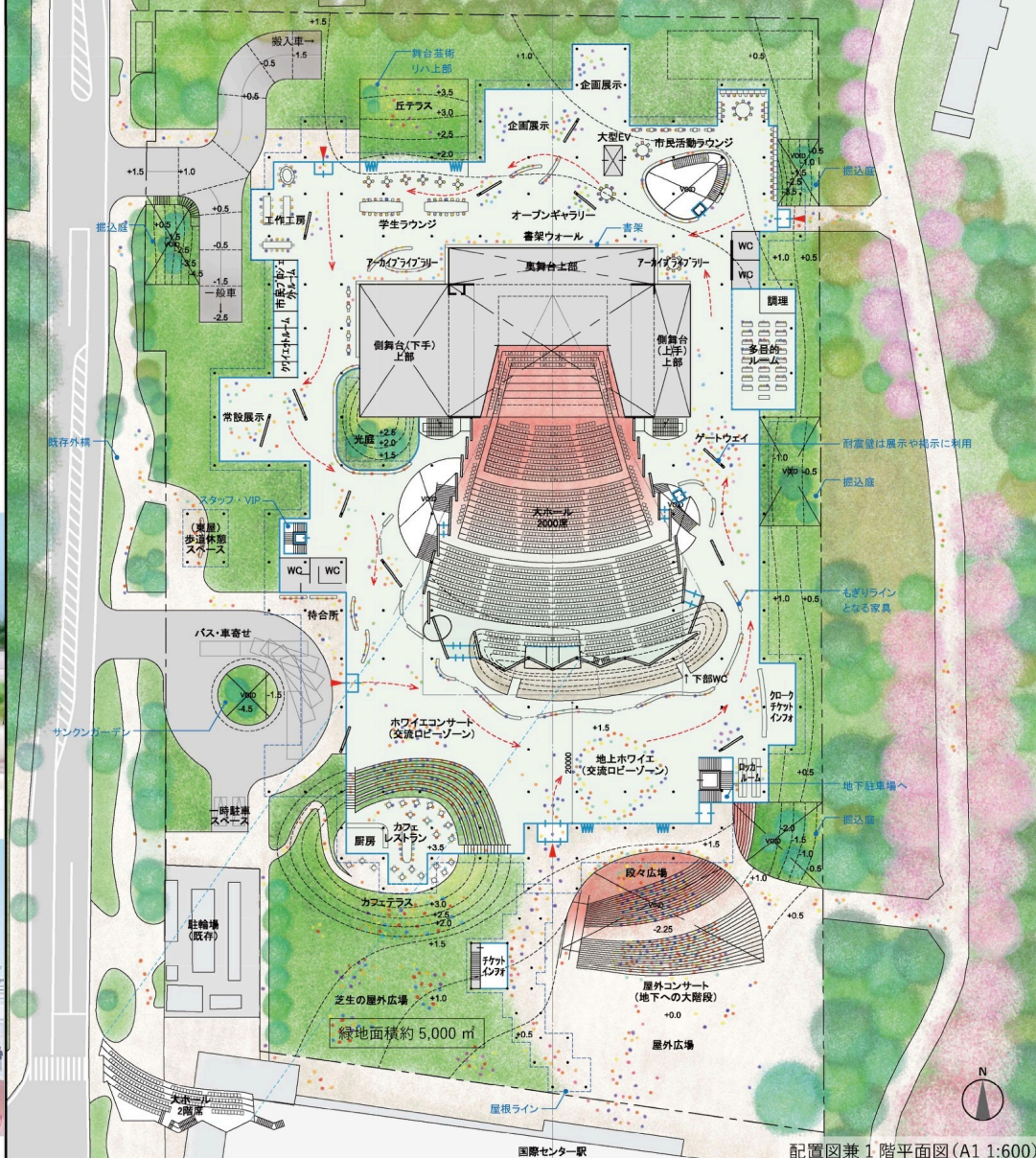
【仲の瀬橋の上から】周辺環境と調和する屋根を掛けます。



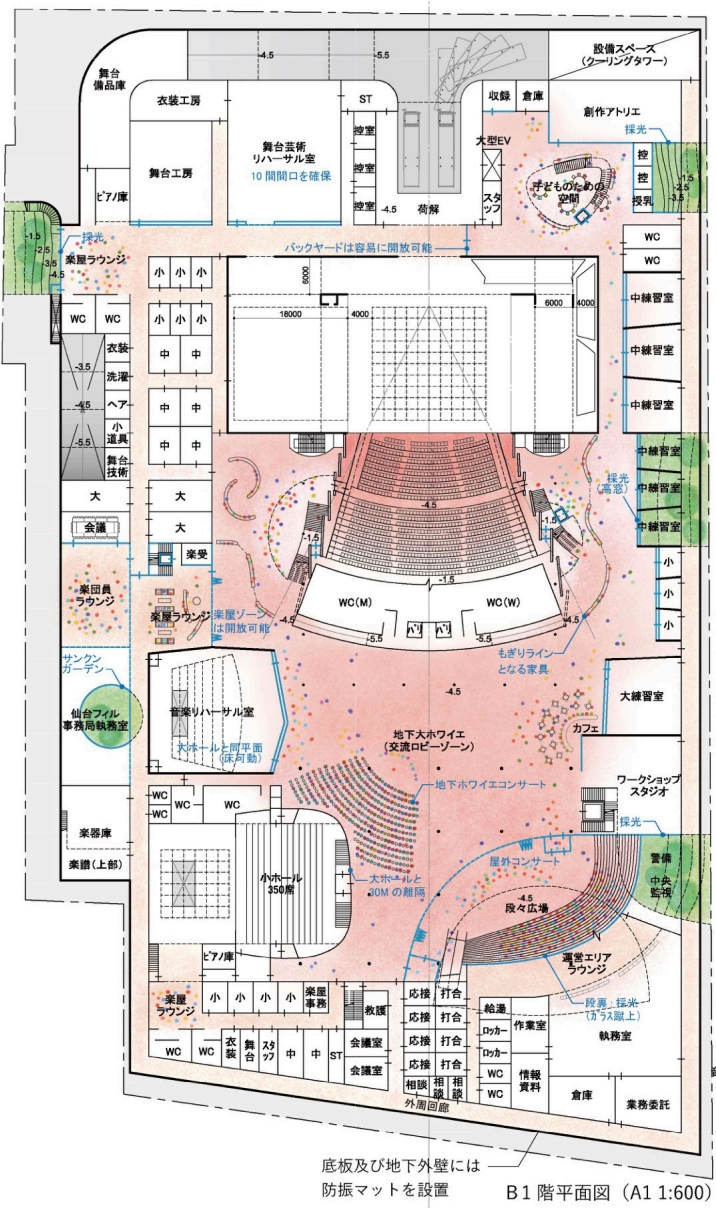
【駅出口から】屋内外の広場が来館者を迎えます。



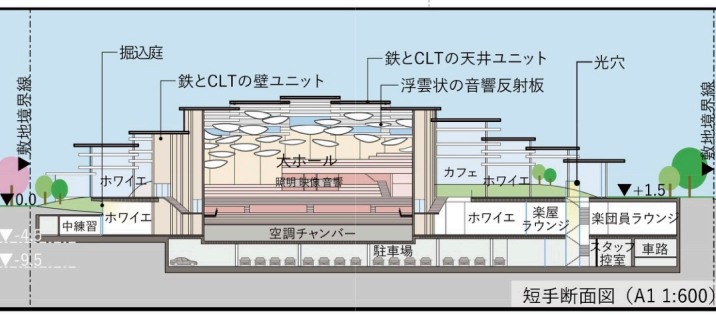
日常的にホワイエコンサートが催される南面



配置図兼1階平面図 (A1 1:600)



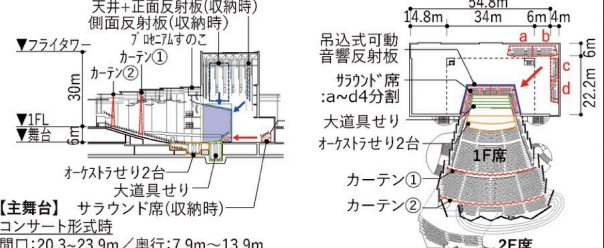
底版及び地下外壁には防振マットを設置 B1階平面図 (A1 1:600)



短手断面図 (A1 1:600)

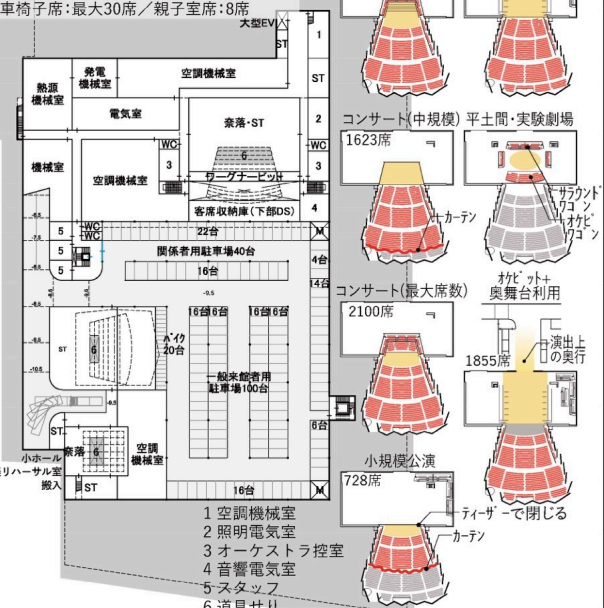
多様な可変性舞台と音をつくる大ホール

- 一部2F席を除いて、地上から地下までワンフロアでつなぐ誰でもわかりやすい客席構成とします。
- 大きな気流を確保し、浮雲状の音響反射板を適所に設置することで、初期反射音を客席全体に届けます (10.43m²/人)。
- 舞台上に道具せり2台を2台設け、平台との組み合わせにより、容易にひな壇が組める方式をとります。
- サウンド席は、吊込収納方式の音響反射板と、エアー浮上移動の客席ワゴン(4分割)で構成し、様々な演出にもフレキシブルに展開します。
- カーテン①②を用いて、演出に応じた客席数の選択を可能とします。



【主舞台】 サラウンド席 (収納時) コンサート形式時 開口: 20.3~23.9m / 奥行: 7.9m~13.9m プロセニウム形式時 開口: 最大10間 / 高さ: 最大33尺 / 奥行: 10間

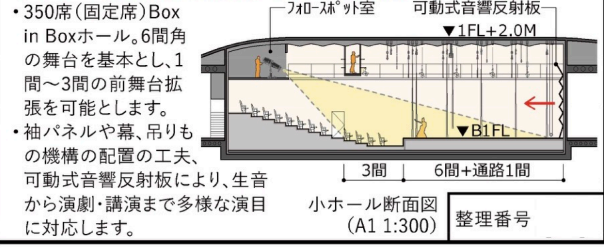
【客席規模】 1F席: 1822席 / 2F席: 184席 計: 2006席 車椅子席: 最大30席 / 親子室席: 8席



B2階平面図 (A1 1:1000)

シンプルな構成で市民からプロまで使いやすい小ホール

- 350席 (固定席) Box in Boxホール。6間角の舞台を基本とし、1間~3間の前舞台拡張を可能とします。
- 袖パネルや幕、吊りもの機構の配置の工夫、可動式音響反射板により、生音から演劇・講演まで多様な演出に対応します。



小ホール断面図 (A1 1:300) 整理番号